

		江戸時代	安土桃山時代	
一八五三年	ペリーが浦賀に来航	一六〇〇年	一五九八年	
		一六〇三年	一五八二年	
		一六二三年	一五七二年	
		一六二三年	一五八二年	
		一六五二年	一五八二年	
		一六五七年	一五八二年	
		一七〇二年	一五八二年	
		一七三四年	一五八二年	
		一七三八年	一五八二年	
		一七四九年	一五八二年	
		一七五六年	一五八二年	
		一七八〇年	一五八二年	
		一七八七年	一五八二年	
		一七九五年	一五八二年	
		一八〇二年	一五八二年	
		一八一八年	一五八二年	
		一八二二年	一五八二年	
		一八五二年	一五八二年	
和束のお茶が江戸で販売され山本嘉兵衛（山本）等と取引する		和束郷などが、禁裏新御料となる	清須会議により、山城国は豊臣秀吉の領地となり、和束にも秀吉の勢力がはいつてくる	和束の喜多新左衛門が、家臣によって殺害される
湯屋谷の永谷宗円が煎茶製法を改良するという		徳川家康、将軍となり幕府を開く	豊臣秀吉は、和束郷の代官に一柳氏を置く	勝を名乗る人物が「和束新左衛門尉」の
湯屋谷の永谷宗円が煎茶製法を改良するという		東福門院に禁裏御料一万石が与えられる	この頃、豊臣秀吉は和束郷に太閤検地を実施する	この頃、和束郷の代官に御牧氏を置く
湯屋谷の永谷宗円が煎茶製法を改良するという		関ヶ原の戦い	この頃、大坂城に松莊（かざり）を毎年納めるようになる	この頃、京都御所に高麗柿を毎年納めるようになる
湯屋谷の永谷宗円が煎茶製法を改良するという			木屋村の帆掛け船は四艘と定められる	正法寺仏殿が建てられる（京都府指定文化財）
湯屋谷の永谷宗円が煎茶製法を改良するという			田村新田（現井手町）が開発される	『山城志』に、和束の土産として茶が記載される
湯屋谷の永谷宗円が煎茶製法を改良するという			桃園天皇の大嘗祭に材木を納める	光格天皇の大嘗祭に材木を納める
湯屋谷の永谷宗円が煎茶製法を改良するという			和束川に船を通すことを計画する	仁孝天皇の大嘗祭に材木を納める
湯屋谷の永谷宗円が煎茶製法を改良するという			湯船から下河原まで和束川に船を通す	湯船から下河原まで和束川に船を通す
湯屋谷の永谷宗円が煎茶製法を改良するという			白栖村に三木楽器創始者三木佐助生まれる	白栖村に三木楽器創始者三木佐助生まれる
湯屋谷の永谷宗円が煎茶製法を改良するという				和束のお茶が江戸で販売され山本嘉兵衛（山本）等と取引する